

SONY

Sony IR Day 2017

半導体分野

2017年5月23日

ソニー株式会社 執行役員 ビジネスエグゼクティブ
ソニーセミコンダクタソリューションズ株式会社 代表取締役社長

清水 照士

目次

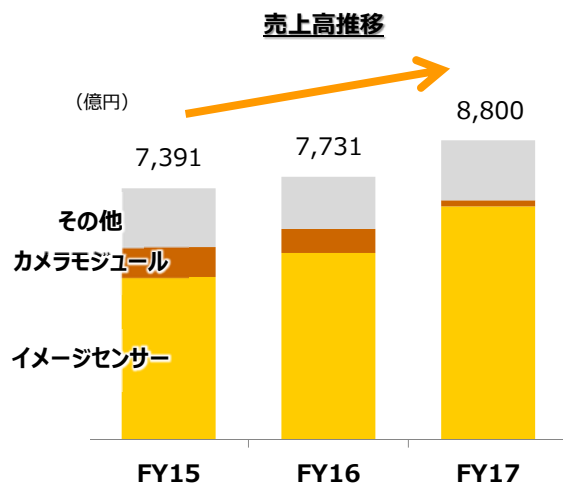
半導体分野

- 1. 事業構造**
- 2. 事業基盤の強化**
- 3. 技術開発**
- 4. まとめ**

1. 事業構造
2. 事業基盤の強化
3. 技術開発
4. まとめ

SSS事業概要

イメージセンサー事業を中心に、震災を乗り越え、再び成長軌道へ舵を切る

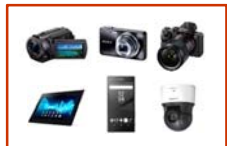


主要事業の基本方針

主要アプリケーション

イメージセンサー

絶対的な事業の柱として更に強化



その他

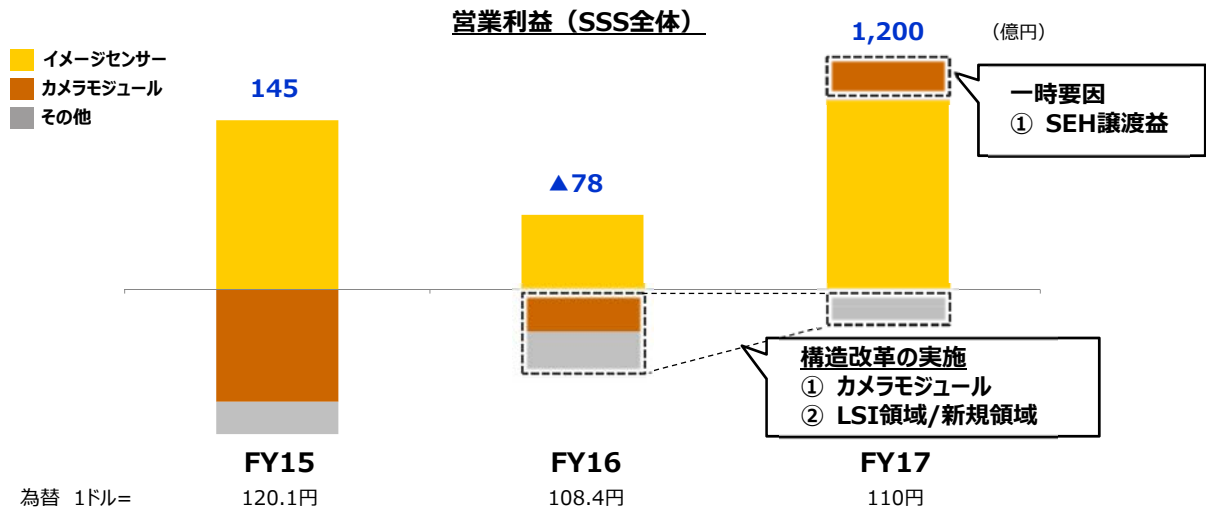
- カメラモジュール
- 差別化技術を活かした限定的な事業展開
- LSI、ディスプレイデバイス
- 特徴ある差別化技術を育成



2015年度～2017年度

半導体分野

2015年度を超える収益の実現を2017年度に見込む

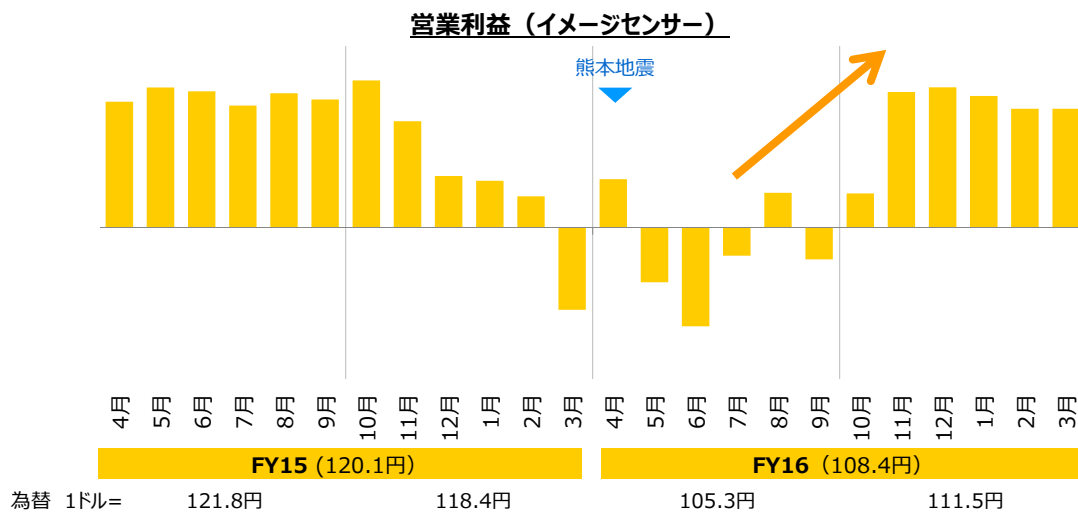


Sony IR Day 2017 | 91

2016年度：ターンアラウンドの年

半導体分野

主力のイメージセンサーは、事業環境が正常化した下期に2015年度と同等の業績へ回復

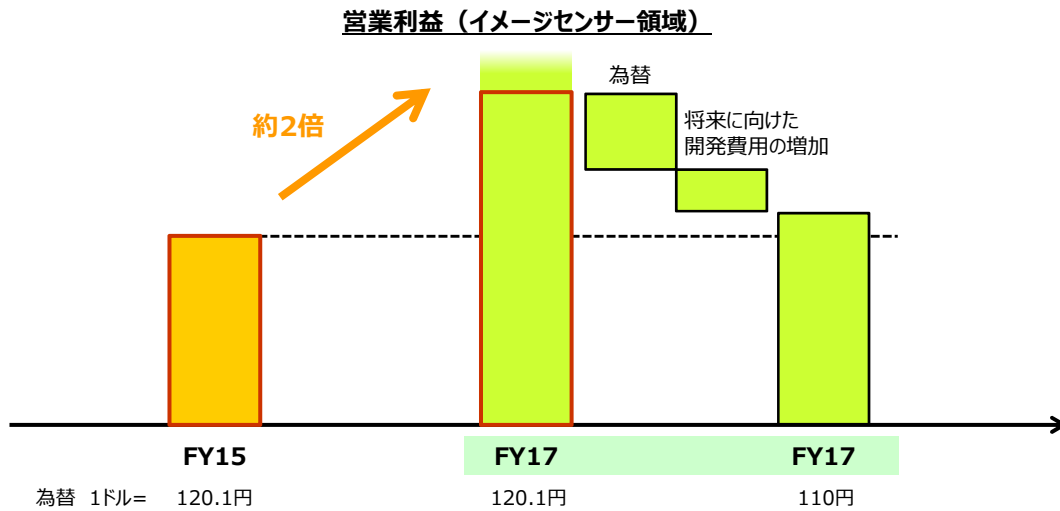


Sony IR Day 2017 | 92

2017年度：飛躍の年へ

半導体分野

イメージセンサー領域の収益力を確実に高め、更なる成長を図る

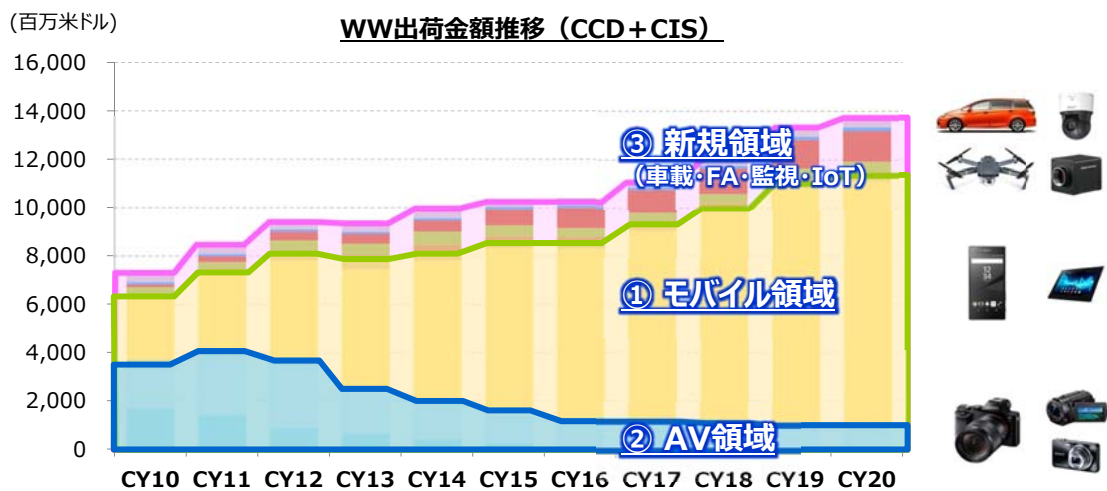


Sony IR Day 2017 | 93

イメージセンサー市場

半導体分野

モバイル領域を中核に、車載・監視領域の成長が期待される市場構造



※ソニー調べ

Sony IR Day 2017 | 94

モバイルセンサー（１） ……事業環境

半導体分野

モバイル市場における高付加価値領域の拡大が後押し

■ スマートフォン マーケットシェア

- ・ 上位グループの優位性がより明確に

ソニーの高付加価値センサーの顧客であるスマートフォン端末の上位グループの市場占有比率が拡大傾向

■ スマートフォン フィーチャートレンド①

- ・ フロントカメラの多画素化が加速

フロントカメラの多画素化により、12MP以上の高付加価値センサー市場はさらに拡大する

■ スマートフォン フィーチャートレンド②

- ・ 複眼化が加速

複眼カメラにより、端末市場の伸びを上回るセンサー市場の拡大が進む

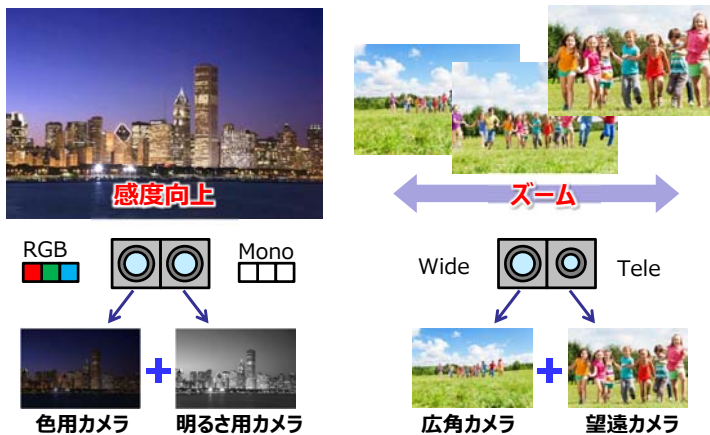
Sony IR Day 2017 | 95

モバイルセンサー（２） ……進化の方向性

半導体分野

今後もスマートフォンカメラの進化を牽引し、市場の発展の原動力となる

カメラの進化（複眼化の定着と発展）



多様化する新機能



Sony IR Day 2017 | 96

定評ある技術優位を活かした事業展開を推進し、モバイルセンサーとの両輪を構成する



※道路交通システム

Sony IR Day 2017 | 97

目次

1. 事業構造
2. 事業基盤の強化
3. 技術開発
4. まとめ

Sony IR Day 2017 | 98

強い経営を目指して

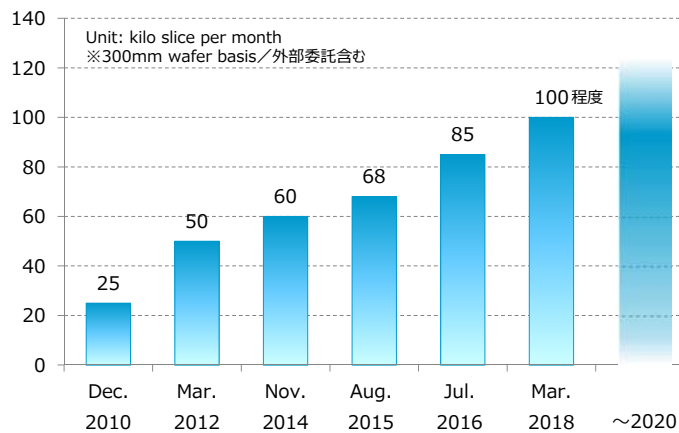
半導体メーカーとしての総合力を高め、市場の信頼と収益性の向上を追求する



生産能力

期待される生産能力の整備を進め、競争力と収益性を強化する

ソニーイメージセンサー : Wafer生産能力推移



熊本
テクノロジーセンター



長崎
テクノロジーセンター



山形
テクノロジーセンター



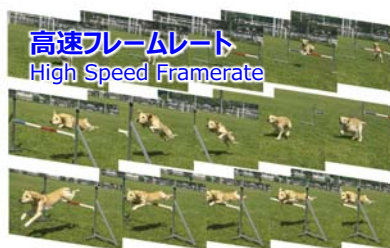
大分
テクノロジーセンター



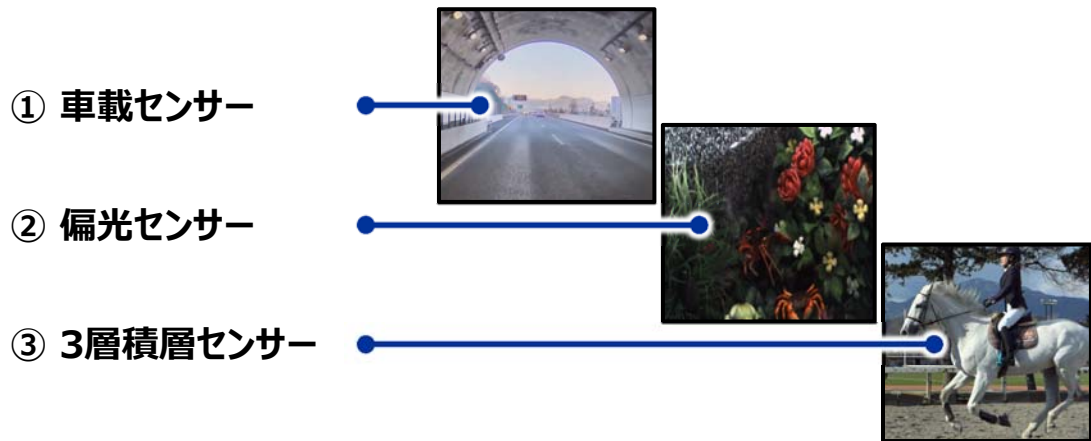
1. 事業構造
2. 事業基盤の強化
3. 技術開発
4. まとめ

技術開発の強化

市場競争力の源泉として画素プロセスと機能進化に取り組む



幅広いアプリケーションへの展開を期待して開発を加速

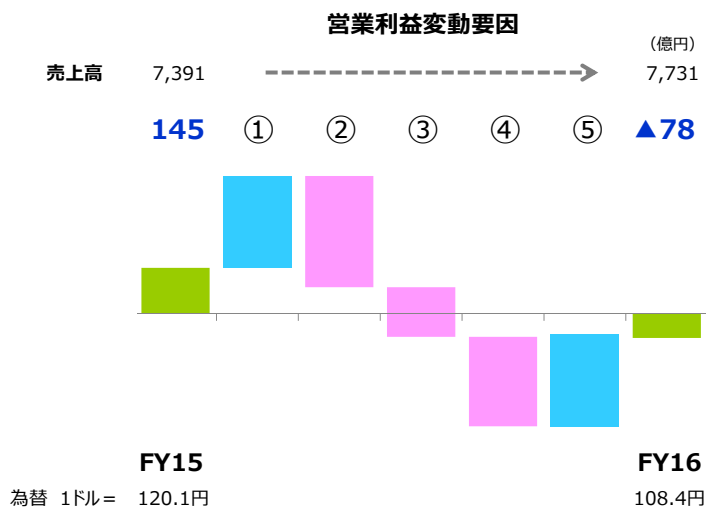


1. 事業構造
2. 事業基盤の強化
3. 技術開発
4. まとめ

2016年度の総括

半導体分野

売上高 7,731億円、営業利益 ▲78億円



2016年度 営業利益変動要因

■ 増益要因

- ① イメージセンサーの利益増加
- ⑤ カメラモジュール減損額の減少等

■ 減益要因

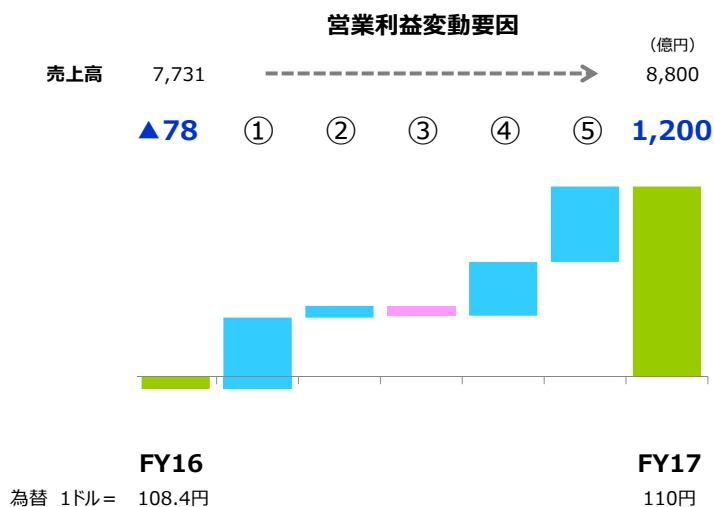
- ② 為替の影響
- ③ 将来に向けた開発費用の増加
- ④ 熊本地震の影響（保険含む）

Sony IR Day 2017 | 105

2017年度の見通し

半導体分野

売上高 8,800億円、営業利益 1,200億円



2017年度 営業利益変動要因

■ 増益要因

- ① イメージセンサーの利益増加
- ② 為替の影響
- ④ 熊本地震の影響（保険含む）
- ⑤ カメラモジュール減損額の減少および譲渡益等

■ 減益要因

- ③ 将来に向けた開発費用の増加

Sony IR Day 2017 | 106

■ 2017年度 業績見通し

- ◆ 売上高：8,800 億円
- ◆ 営業利益：1,200 億円
(一時的要因除く 863億円)

■ 2017年度 基本方針

- ◆ 中核事業領域であるイメージセンサーにフォーカスし、モバイル、AV・監視領域を中心に顧客価値と収益性の最大化を目指す
- ◆ 中長期視点でのイメージセンサーの展開アプリケーションの育成、強化(車載・産業領域)

■ 収益性の目線

- ◆ 為替1ドル = 100円でも少なくとも営業利益1,000億円を稼げる体質

将来に関する記述等についてのご注意

このスライドに記載されている、ソニーの現在の計画、見通し、戦略、確信などのうち、歴史的事実でないものは、将来の業績に関する見通しです。将来の業績に関する見通しは、将来の営業活動や業績、出来事・状況に関する説明における「確信」、「期待」、「計画」、「戦略」、「見込み」、「想定」、「予測」、「予想」、「目的」、「意図」、「可能性」やその類義語を用いたものには限定されません。口頭又は書面による見通し情報は、広く一般に開示される他の媒体にも度々含まれる可能性があります。これらの情報は、現在入手可能な情報から得られたソニーの経営陣の仮定、決定ならびに判断にもとづいています。実際の業績は、多くの重要なリスクや不確実な要素により、これら業績見通しと大きく異なる結果となりうるため、これら業績見通しにのみ全面的に依拠することは控えるようお願いいたします。また、新たな情報、将来の事象、その他の結果にかかわらず、常にソニーが将来の見直しを見直しで改訂するとは限りません。ソニーはそのような義務を負いません。実際の業績に影響を与えうるリスクや不確実な要素には、以下のようなものが含まれます。

- (1) ソニーの事業領域を取り巻くグローバルな経済情勢、特に消費動向
- (2) 為替レート、特にソニーが極めて大きな売上、生産コスト、又は資産・負債を有する米ドル、ユーロ又はその他の通貨と円との為替レート
- (3) 激しい価格競争、継続的な新製品や新サービスの導入、急速な技術革新、ならびに主観的で変わりやすい顧客嗜好などを特徴とする激しい市場競争の中で、充分なコスト削減を達成しつつ顧客に受け入れられる製品やサービス(テレビ、ゲーム及びネットワーク事業のプラットフォーム、ならびにスマートフォンを含む)をソニーが設計・開発し続けていく能力
- (4) 技術開発や生産能力増強のために行う多額の投資を回収できる能力及びその時期
- (5) 市場環境が変化する中でソニーが事業構造の改革・移行を成功させられること
- (6) ソニーが金融を除く全分野でハードウェア、ソフトウェア及びコンテンツの融合戦略を成功させられること、インターネットやその他の技術開発を考慮に入れた販売戦略を立案し遂行できること
- (7) ソニーが継続的に、研究開発に十分な資源を投入し、設備投資については特にエレクトロニクス事業において投資の優先順位を正しくつけて行うことができること
- (8) ソニーが製品品質を維持し、既存の製品及びサービスについて顧客満足度を維持できること
- (9) ソニーと他社との買収、合併、その他戦略的出資の成否を含む(ただし必ずしもこれらに限定されない)ソニーの戦略及びその実行の効果
- (10) 国際金融市場における深刻かつ不安定な混乱状況や格付けの低下
- (11) ソニーが、需要を予測し、適切な調達及び在庫管理ができること
- (12) 係争中又は将来発生しうる法的手続き又は行政手続きの結果
- (13) 生命保険など金融商品における顧客需要の変化、及び金融分野における適切なアセット・ライアビリティ・マネジメント遂行の成否
- (14) 金利の変動及び日本の株式市場における好ましくない状況や動向(市場の変動又はボラティリティを含む)が金融分野の収入及び営業利益に与える悪影響
- (15) ソニーがサイバーセキュリティに関するリスク(ソニーのビジネス情報への不正なアクセスや事業活動の混乱、財務上の損失の発生を含む)を予測・管理できること
- (16) 大規模な災害などに関するリスク

ただし、業績に不利な影響を与えうる要素はこれらに限定されるものではありません。